

「02 Webサイトの情報を活用しよう」

1．指導対象

小学校高学年～高校1年生

2．指導意図

インターネットを利用する方法として多く用いられるものに、ネットサーフィンや Web 検索がある。特定のホームページからリンクボタンをクリックしたり、直接 URL を入力したり、検索エンジンを使ったりして、ネットサーフィンを楽しんだり、情報を得たりすることができる。

しかし、得たい情報は漠然とした単語の場合が多く、その単語を含む Web ページは検索エンジンを使ってキーワード検索などの方法で調べることが多いが、実際に調べてみるとかなりたくさんの Web サイトがあり、1つ1つのページを開いて得たい情報かどうか調べるのは気が遠くなる作業となってしまう。また、ようやく行き着いたページの情報を鵜呑みにして信じたら、事実と違っていたという言う場合も出てくる。言い換えれば、ネットサーフィンや Web 検索は、情報を入手しようとする側が入手のための手順や情報の信憑性を評価できる方法を知らないで行っていると、ただ楽しいサーフィンや大変な情報検索を体験する事になりやすく、価値ある情報を上手に入手できないものとなってしまう。

そこで、絞り込み検索などの Web 検索方法の学習や、情報の出所を識別することで情報の信憑性を考える学習をすることで、「ネット社会」を上手に歩んでいける人間を育成したいと考え、この教材を設定した。

3．指導目標

Web の仕組みや検索エンジンの特徴（ディレクトリ型とロボット型）、キーワードの指定方法を知り、検索エンジンの種類による調べ方の違いや絞り込み検索の方法の違いを知り、情報収集の方法を理解する。

Web サイトの情報は全て正しい情報とは限らないことを知り、URL アドレスから信頼できる情報の選択の方法を身につけ、情報の信憑性を考える力を育てる。

検索し獲得した情報の2次利用の仕方について、情報発信者の意図や著作権を考える態度を養う。

4．授業展開例

教室での一斉授業形態で実施する場合、教師側には教材提示用の端末1台と、プロジェクターを用意し、生徒側にはグループごとに1台以上の端末があることが望ましい。

教師はプロジェクターで問題を提示したり、参考となるWebページを紹介したりする。生徒は教師の指示に従って教師が提示した教材を繰り返し見たり、参考となるWebページを検索したりして授業を進める。

指導事例：「ネット社会の歩き方：レッスンキット」

学習活動	教師の支援
<p>(1) どんなときにネットサーフィンやWeb 検索を行っているか、実例を發表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入り (BookMark) から ・検索エンジン ・リンクボタン <p>・検索してみると、たくさん有りすぎて見つけられない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使って、見たいWeb ページを開くのに行っているのだろう。 ・携帯電話を使った例も發表させる。 <p>・ネットサーフィンやWeb 検索で困ったことはなかつたらうか。</p>
<p>(2) 学習モジュール (Web サイトの情報を活用しよう) を教師が紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・液晶プロジェクターなどを用いて学習モジュールを表示する。
<p>(3) 各グループごとに学習モジュール (Web サイトの情報を活用しよう) を見て、何が問題になるのか話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの端末から学習モジュールが見られるように事前に設定しておく。 ・話し合った内容をワークシートに書き込ませる。 <p>課題 主人公の行動で何が問題だったのか。</p> <p>課題 結末のようなことを防ぐためにどのようなことに気を付ければいいのか。</p> <p>課題 信頼できる情報かどうか、どこに気を付ければいいのか。</p>
<p>(4) グループごとに話し合った内容を發表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの書き込みを参考にさせながら發表させる。
<p>(5) 教師が問題点及び検索エンジンの使い方、信頼できる情報についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web ページのコピーについて ・検索エンジンの使い方 ・信頼できる情報の見分け方 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の情報をコピーすることは、正確な情報を得られないだけでなく、著作権法にもふれることに気付かせる。 ・検索エンジンの種類、絞り込み検索などの方法を例示する。 ・URL に着目させ、go.jp や or.jp などは政府や役所関係の統計資料は、信頼性が高いこと、個人の随想的なページは、必ずしも正確な情報ではないことに学習モジュールの例を使いながら、気付かせる。
<p>(6) ワークシートに感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで紹介する実際の事例については校

指導事例：「ネット社会の歩き方：レッスンキット」

	<p>種や生徒の実態に合わせて参考資料の Web ページから教師が準備する。</p> <ul style="list-style-type: none">・感想をワークシートにまとめさせる。・感想については、学校の実態に即して校内の掲示板に書き込ませたり、学習用のメーリングリストを設定してそこに投稿させてもよい。
--	--

5．問題事例が発生した際の教師や保護者サイドの対処法、問題解決法

ネットサーフィンや検索そのものでトラブルに巻き込まれることはないと思います。ただし、得た情報の利用において、著作権を侵害している場合があります。教育目的で限られた人数がその情報を共有している段階はいいのですが、その情報を二次利用して第三者に提供するようなことになると著作権侵害を犯す可能性があります。子どもが作成した Web ページをインターネット上に公開する際には、その点を十分注意する必要があります。

また、検索エンジンを使って検索を進めている際にその Web ページ上に広告ページへのリンクボタンがよく見かけられます。リンクボタンをクリックしていくと徐々に商品購入やアンケートに答えるページにたどり着くことがありますので、必要ない使い方をさけるよう指導してください。

6．学習課題に関する F A Q

Q：「検索エンジン」って何のことですか。

A：インターネット上の情報を探し出す検索システムを指します。検索エンジンもサーチエンジンも、検索ページ・検索サイトなどいろいろな呼び名がありますが、どれも同じといえるでしょう。また代表的な検索システム（検索サイト）としては、

Yahoo JAPAN (<http://www.yahoo.co.jp/>)

Yahoo キッズ (<http://kids.yahoo.co.jp/>)

Goo (<http://www.goo.ne.jp/>) 子供向けの検索サイト

キッズGoo (<http://kids.goo.ne.jp/>) 子供向けの検索サイト

Google (<http://www.google.com/>) などがあります。

Q：「ロボット型の検索エンジン」「ディレクトリ型の検索エンジン」とはどんなことですか。また「キーワード検索」とはどういうことを指すのですか。

A：「ロボット型の検索エンジン」では、サーチロボットと呼ばれるホームページ巡回システムを使用して、毎日 Web ページを自動登録しています。言い換えれば「自動的にどこにどんな内容の Web ページがあるか、登録されたものを使って情報を得るシステム」と言えます。登録された Web ページに書かれた内容から、調べたいことを代表する単語（キーワード）に表して検索させることを「キーワード検索」といいます。

指導事例：「ネット社会の歩き方：レッスンキット」

それに対し、「明日の天気を知りたい」「パソコンの値段を知りたい」「CDのヒットチャートを見たい」など調べる内容が一般的な内容であり、絞り込みができないような場合、すでに分類された「天気予報」「コンピュータ」「ショッピング」「音楽」などのディレクトリに書き込まれた内容から調べていく検索を「ディレクトリ型検索エンジン」と呼んでいます。分類された項目がリンクボタンになっている場合が多く、そのリンクボタンを押すことで調べていくことができます。

Q：「絞り込み検索」は、どう行うのですか。

A：検索は「キーワード（調べたいことを一言で表した言葉）」を検索エンジン上で入力します。例えば「森」という言葉をキーワードにして入力すると「検索結果187,488ページ」などと表示されます。「森林」とすると「検索結果 39,254 ページ」などと表示されます。キーワードの使い方によって検索結果で示されるその言葉を含んだページ数が変わります。さらに「森林 酸性雨」と2つのキーワードを、スペースを間に入力して検索すると「検索結果4,906 ページ」とその言葉を含んだページ数が少なくなります。調べるページを絞り込んでいくことから「絞り込み検索」または、条件付き検索などと呼んでいます。

Q：信用できる情報はどうやって見つけていけばよいのですか。

A：調べる基本は自分の目と耳です。出版物の場合は、かなり吟味してから世の中に出回りますが、Web ページの場合は内容チェックがしっかり行えていないのが現状です。どんな機関や人が出している情報なのかを情報を得る側が判断しなければなりません。統計資料などは、政府や行政機関が示しているものは信憑性が高いと考えられます。政府や行政機関の場合は、URLの最後に「go.jp」「or.jp」が付きます。学校の場合は「ed.jp」が付きます。会社は「co.jp」が多いのですが、最近は個人も会社も「.com」（アメリカの商用ネットのドメイン名）を使っている場合があるので、見分けるのが難しいかもしれません。

いずれにしても、1つのWeb サイトの情報を鵜呑みにせず、複数のWeb サイトで情報を比べる、その中からどちらでも同様に取り扱っている情報であれば大方信頼できると考えていいでしょう。

< 著作権について >

社団法人 著作権情報センター

<http://www.cric.or.jp/>

社団法人 コンピュータソフトウェア著作権協会

<http://www.accsjp.or.jp/>

日本教育工学振興会 http://www2.justnet.ne.jp/~junko_honkawa/japet/index.html

< 検索エンジンの使い方 >

「超初心者のためのホームページ検索術」<http://www.aimnow.com/searchtech/basic/basic1.html>

アスキーデジタル用語辞典

<http://yougo.asci i24.com/gh/09/000957.html>